

「あなたのお仕事は」と質問されたときに、欧米人は「ITのエンジニアです」とか「経理・財務の専門家です」とか答えます。一方日本人は、「〇〇会社に勤めています」とか「公務員です」と答えます。

ナビゲーター

この違いはどこから来るのでしょうか。

欧米人は自分の専門としている仕事を答えるのに、日本人はどのような組織に属しているかを答えます。日本人は「就職」ではなく「就社」

人生100年時代に向けたキャリア開発

その考え方と方法

すると言われる所以です。

この違いを組織の中での「ライン職」と「スタッフ職」に関して言えば、日本人は「ゼネラリスト」を、欧米人は「スペシャリスト」を志向する傾向があるからだと思います。

学卒の新規就職と違って転職の場合は、応募した企業からは「あなたの希望職種は何ですか」とか「あなたは今うちの会社でどのように貢献しま

仕事理解

すか」というような希望する「職種」についての能力や、スキル、経験を問われます。

したがって、過去の職務経歴で獲得した自分の強みを事前に整理しておく必要があります。これは以前にご説明した「自己理解」に相当します。

仕事理解にあたっては、どんな産業で自分は働くかということがあります。製造業なのかサービス業なのか、製造業の場合には消費財を作っ

ているB TO C (Business to Consumer) の会社なのか、資本財を作っているB TO B (Business to Business) の会社なのかの選択があります。

前者はテレビなどのコマースでよく目にするのですが、後者はそのようなことが少なく、優良企業でも知られていない場合があります。

また、産業は歴史的な盛衰がありますので、今栄えている産業が未来永劫続くという保証はありません。個々の企業も持っている企業風土や企業文化を知ることが必要です。

職種について注意しなければならぬのは、世の中の変化に応じて仕事が変わる、つまりなくなってしまう仕事もあれば、新たに発生する仕事もあるということです。

AI (Artificial Intelligence) やロボットの普及により、いわゆるルーチン業務(定型業務)は、機械にとつてかわられることがすでに起こっています。

また、仕事に対する自己の能力が陳腐化し役に立たなくなることもあり得ます。新しい職場では、常に社会や技術の変化などを捉え、自己のスキルをアップすること(最近よく使われる言葉では「リカレント教育」)がとても大切です。

このことは、長寿化により職業生活の期間が人生の後半において長くなるので、中年になっても必要です。

【日本産業力ワーカー協会 会員・キャリアコンサルタント・社会保険労務士 杉本和夫】(火曜日掲載)

日本人は「会社」、欧米人は「職業」を答える

